

GE-2- i -01	B 芸術と社会	第2学年	前期 選択必修	1.5 単位
担当者	堀 祐子			
一般目標 (GIO)	かつて口承や朗読、演劇などの音による言語芸術であった文学(詩と演劇)を中心に学びます。まずはマザーグースから始め、William Shakespeare、Oscar Wilde、Caryl Churchill、Conceptual Writing の韻文や音とことばの機能性について学び、社会的背景と芸術作品の関係性を考察します。			
到達目標 (SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 詩や演劇を実際に声に出して音を味わい、そこから韻文の韻律性、ことばの機能性について考察ができる。 2. 現代アートである Conceptual Writing (Uncreative writing)を学び、言語表現による芸術作品が Shakespeare の時代からどのようにして変容してきたのかについて自分の意見を述べられる。 3. 社会と作品の関係性について理解できる。 4. 毎回のリアクションペーパーに自分なりの考察をまとめられる。 			
受講心得・準備学習等	毎回、英語の原文を読みます。受講者は予習として英語テキストを読むことと、教室ではそれらの細かいディスカッション等が求められます。原書を正しく理解できる読解力と、主体的かつ能動的な授業への積極性が必要となります。 予習時間は1,2時間程			
事後学習・復習等	各時代が終わる毎に自分でまとめておくこと。また、扱った作品はYouTubeなどの動画サイトで再度視聴しておくこと。復習時間は1時間程。			
オフィスアワー	火・水 12:30~13:30			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義
回	項目	内容
1	オリエンテーション	
2	伝承童謡	マザーグース(Nursery Rhyme)
3	伝承童謡	マザーグース(Nursery Rhyme)
4	英国ルネサンスの言語表現	Shakespeare の詩
5	英国ルネサンスの言語表現	Shakespeare の戯曲における散文、韻文
6	英国ルネサンスの言語表現	Shakespeare の戯曲における散文、韻文
7	ヴィクトリア朝末期の言語表現	Oscar Wilde の <i>The Importance of Being Earnest</i> における浮遊することば
8	ヴィクトリア朝末期の言語表現	Oscar Wilde の <i>The Importance of Being Earnest</i> における浮遊することば
9	20世紀末の言語表現	Caryl Churchill の <i>Serious Money</i> におけることば
10	20世紀末の言語表現	Caryl Churchill の <i>Serious Money</i> におけることば
11	21世紀の言語表現	Caryl Churchill の <i>Seven Jewish Children</i> におけることば、伝承性
12	現代: Conceptual Writing	“Fidget”, “Day”, “Weather”, “Traffic” by Kenneth Goldsmith
13	現代: Conceptual Writing	“Follow” by David Buuck and “The Detective” by Sophie Calle
14	学期のまとめ	期末試験

成績評価の方法	授業への参加度(15%),リアクションペーパー(15%),中間レポート(20%)及び期末試験(50%)の成績を総合的に評価します。
成績評価の基準	単位の取得には2/3以上の出席を必要とします。 上記の合計点が60%以上を合格とします。
教科書	授業時に資料を配布します。
参考書など	授業時に随時紹介します。

